

令和8年度 共同生活援助 風の音 地域連携推進会議会議録

1. 開催場所 社会福法人園樹会が設置運営する、びあ smile 会議室
2. 日時 令和8年8月25日（火） 午後14時30分より15時30分迄

3. 参加者

施設職員4名

園樹会理事長：塩澤一夫

風の音管理者：中村潤

風の音生活支援課長：村松信吾

園樹会開発課長：河野真吾

構成員8名

利用者：KN様

利用者家族：成島洋子

利用者家族：古屋寛

地域の関係者：戸澤清茂

地域の関係者：小野正文

地域の関係者：堀之内妙子

地域の関係者：小倉早苗

福祉に知見のある人：勝俣光司（甲府市障害福祉課）

<協議事項>

1. 開会のあいさつ

塩澤理事長より、開会のあいさつが行われ、当法人が GH を運営する目的と方針について説明がありました。

入所施設に隣接して風の音を開設した意義は、単に住まいを提供するだけでなく、家庭的な温かみのある生活と地域社会とのつながりの両立を目指す点にあります。個人のプライバシーを大切に守りながら、地域の一員として普段の食事を楽しみ、行事などにも積極的に参加していくこと。こうした地域で共に暮らす生活への転換を基本方針に据え、今後もその実現に向けて取り組んでいく姿勢が示されました。

2. 自己紹介

参加者の自己紹介を行う。

3. 地域連携推進会議の目的

中村管理者より、地域連携推進会議の趣旨についての説明が行われ、地域連携推進会議の目的について、主に以下の4つの柱が説明されました。①利用者と地域との関係づくり（GHで暮らす利用者の方々が地域社会の一員として繋がりを持ち、良好な関係を築いていけるようにすることを目指します。）②地域住民への理解促進（障害の特性やGHの活動について、地域の方々に正しい理解を深めていただくための取り組みです。）③施設・サービスの

透明性と質の向上（運営状況や事故報告などの情報をオープンに共有し、外部の視点を取り入れることで、提供するサービスの質と安全性を高めます。）④利用者の権利擁護（地域と一体となって、利用者一人ひとりの権利や尊厳が守られ、安心して暮らせる環境を維持します。）

これらを実現するための具体的な運営体制や取り組みとして、多様な構成員の参画や定期開催と見学機会の提供について説明がなされました。

4. 障害の理解について

中村管理者より、知的障害や発達障害についての理解を深める説明がありました。利用者の方には、意思疎通の難しさや感覚の過敏さ（服のタグや靴下を嫌がるなど）、特定の行動へのこだわりといった生活上の課題が見られることがあります。その一方で、関心のある分野では並外れた力を発揮する方も多く、バス停の名前を正確にすべて暗唱したり、勤務表や広告などの情報を細かく把握・記録したりといった、突出した記憶力や才能といった強みもあわせて紹介されました。

5. 議題

（1）風の音の概要

中村管理者より、事業所概要が報告される。GHには男性10名が入居されており、年齢層は20代から70代までと幅広く、障害支援区分は4から6の方が中心です。職員はサービス管理者1名、生活支援員3名、世話人が2名です。日中の通所先は、向徳舎の生活介護7名、虹の色の生活介護1名、きぼうの家の生活介護1名、月のひかりの就労支援継続B型が1名です。

次に、令和8年度のヒヤリハット及び事故報告が行われました。ヒヤリハットは7件、事故報告は0件が報告されており、何れも昨年比で減少しています。

入居者負担金額については、月額実質負担は約5.8万円で内訳は実質家賃2万円、光熱水費約1.3万円、食費約2.4万円、日用品費約1千円です。

（2）質疑応答

塩澤理事長：GHに入居していかがですか？

成島洋子様：言葉での意思疎通が難しく、自宅ではお気に入りの洋服を噛んで破いてしまう破衣や、夜間に眠れなくなるなどの特性があり、GHへの入居当初は「本当にやっていけるのか」と非常に不安で過保護になっていました。

村松支援課長：GHでは夜間も非常によく眠られており、朝までぐっすり休まれています。言葉でのやり取りが難しいため、本人の表情や仕草から細かく意思を汲み取る支援を心がけています。また、1時間ごとの定時トイレ誘導を行っています。また、最近では職員とのキャッチボール遊びなど、新しいコミュニケーションの形も生まれています。個室のベッドの上で非常にリラックスして過ごされており、生活リズムもとても安定しています。

戸澤清茂様：成島さんのお話を聞いて、「家庭はリラックスして充電する場所」であり、「GHは適度な緊張感と社会性を持って放電する場所」なのだと腑に落ちました。自宅ではエネルギーを充電し、GHでは集団生活のルールの中で社会性を発揮（放電）されている。このサイクルが本人の成長を支えているのではないのでしょうか。

塩澤理事長：戸澤様のおっしゃる通り、本人は自宅と風の音を使い分けて生活しています。障害があるからといって、ずっと親元にいるのではなく、一度家族から離れて社会的な自立を経験することは非常に重要だと考えています。ご家族が「GHに迷惑をかけているのではないか」と過剰に恐縮される必要は全くありません。むしろ、GHを利用することでご家族がそれぞれの時間を持ち家庭の暮らしを取り戻せたことを嬉しく思います。

小野正文様：重い障害を持つ方々が暮らす中で、施錠についてはどのようになっていますか。

中村管理者：利用者の個室（各部屋）には鍵をかけていません。また、隣の部屋に入ってしまうなどのトラブルに対しても、施錠ではなく自分の部屋に戻るというルールを本人が納得できるよう支援し、現在はルールが定着しています。ただし、夜間は職員が1名体制となります。万が一、利用者が夜間に無断で外に出て道路等に飛び出してしまった場合、命に関わる重大な事故に繋がりがねません。そのため、夜間のみ正面玄関を施錠する措置をとっています。

勝俣光司様：地域の中にGHをつくり、障害のある方が暮らしていく地域移行を推進するためには、成島様が話してくださった「GHを利用したことで家族が普通の生活を取り戻せた」というようなご家族の生の声を発信していくことが何より重要です。こうした小さな理解の積み重ねが、地域住民の障害理解を深める一番の原動力になります。

中村管理者：入所施設とは異なり、このGHは地域の中の普通の家です。日頃から、買い物や散歩に出かけ、ご近所の方に日常の挨拶をすることを大切にしています。先日は夏祭りの一環で施設見学会を行いました。今後はさらに一歩進んで、地域のイベントや清掃活動など、地域を巻き込んだ取り組みへ積極的に参画し、より開かれたGHづくりを目指してまいります。

6. 閉会のあいさつ

塩澤理事長より、閉会のあいさつが行われ、その後に事業所見学を行う。

議事録作成者 河野 真吾